作られたものである。

以上のように、貞和4年(1348) に建立された明王院五重塔は、当時の浄土信仰と結びついて信仰されていた弥勒信仰にもとづいて、建てられたことが、陰刻銘によりわかるのである。

草戸千軒町や出入する舟から、明王院の五重塔は、真近にみえたであろうから、小資を出した人々は、死後に弥勒のいる兜率天にともなってくれる五重塔に、厚い信仰心をいだいていたであろうと思う。

(註) ① 順縁とは年をとったものから順々になくなっていく縁。

逆縁とは、若い者の方が、年をとった者よりも早くなくなっていく縁。

また悪の道から仏の道にはいっていく縁等。

(福山市民図書館)

異聞明智山城私考

後藤匡史

福山市大門町、大門、野々浜と岡山県境に連らなる明智山は、標高141メートル、以前は揚知山とも、士隠山とも呼ばれていたこの明智山に、最初に城を築いたのは、南北朝時代(1336〜1392年)鮑浦(あくら)四郎左衛門尉である。

光円寺より明智山を望む

鮑浦氏の出自と云えば、備前児島郡、現在の岡山市児島である。又、岡山県浅口郡六条院に安倉(あくら)と云う所(現在は寄島)ありという、この時代に鮑浦三郎左衛門尉信胤と云う人あり同族か?

その後、戦乱の度に城主は岡、河野、藤井氏と変わり、天正5年(1577年) 廃城となり、近くの烏帽子山城、枝

広城も前後して廃城となった。

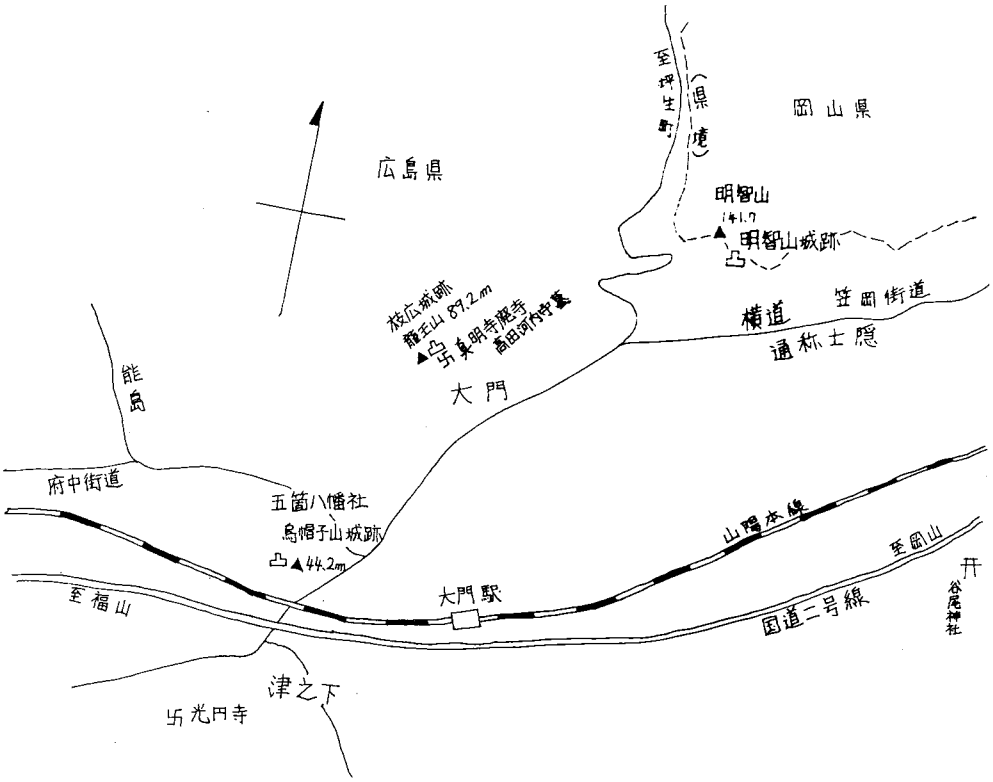
弘治２年（1556年）河野刑部左衛門尉光重は、それまで隣国備中有田の城主陶山弾正忠国時（この陶山氏と云うのは、鎌倉幕府北条氏打倒を叫び、元弘の変に、南朝後醍醐天皇が立籠る難攻不落と云われた笠置山城を、一族備中笠岡追分鳶ノ子山城主小宮山某と共に、風雨の中、一夜にして、落城せしめ備中にその人有りと、うたわれた陶山藤三義高の曽々孫にあたる）に敗れ、光重の嫡子光円は、落ちのび、大門天台宗海雲寺を頼り、得度して仏門に入り、立円と号し、その後、修業を思い立ち、大阪に出て石山本願寺にて顕如上人（光佐）に帰依して、その弟子となったという。その頃、石山本願寺は、天下統一をめざす織田信長の攻撃を受けていた。光円も戦ったが利あらず、ついに石山本願寺は門を開いた。

しかし、顕如の子、教如は、光円の功績をたたえ、教如の１字を、もらい受け教円とし、帰国して、海雲寺を廃し、津之下仏の峠（たわ）に、一寺を建て、光円寺とし、その後慶長年間津之下現在の地に移転した。

そしてその後（あと）を受けて、明智山城には入ったのが藤井太郎左衛門好長、藤井氏と云えば備中正霊山城主藤井能登守皓玄がいて、永緑１２年(1569年）一時神辺城を占処したがその後、追われ大門に逃げて来たと云われている。

この皓玄の末弟に小坂信濃守利直がいるが、利直の娘が「お登久」（一説によると皓玄（こうげん）娘にて利直養女とも云われる）この頃、水野勝成が備中流浪の折、慶長２年(1597年）お登久に生ませたのが福山藩水野家二代勝俊である。勝成慶長19年（1614年）備後十万石にて入封した時、藤井一門も輩下に加わっている。勝成の後室は備中成羽三村紀伊守親成の姪御珊にて香徳院、又お登久は良樹院と称し今、墓は福山市長者町浄土宗定福寺にある。

話は変わるが天正１５年(1587年）鳥帽子



大門町の史跡

山城跡に坪生庄（福山市坪生町）解体後の真中八幡社の分霊を勧請（かんじょう）、五箇八幡（大門津之下、野々浜、引野、能島）を建立、そして、枝広城城山南麓真明寺（現在は廃寺）には、天正年中備中大下（大宜）大橋山城主高田河内守則義、陶山氏に敗れ当地に入り果てた。真明寺横の山裾に五輪塔が並んで建っている。それから、大門町野々浜、林にある谷尾神社は、以前は明智山中腹にあって藤井皓玄を祀っていたが、その後、大津野湾（水野家四代勝種が寛文7年(1667年)に開いた大津野新開）にて海難事故があいつぐので社殿を現在の地に移転したと云われる。

今、野々浜横道桐之本藤井、林は空藤井、津之下中西藤井、これら藤井各家がある。

現在明智山城址、その遺跡はまったくわからず生い繁る雑草に土地の人にも忘れ去られ様としている。

ちなみに福山市三吉町光明寺は、元亀3年(1572年)野々浜明智山城主河野一族藤間光重の子光明、祖先菩提のため、津之下月浜に建立（津之下光円寺、御領明正寺は光明の従者、山口隼人亮、室町十郎左衛門のそれぞれ出家草創とも云い、福山志料では、光円俗名万之丞、弟は幾三郎光明とする）八世教運寛永5年(1628年)東町三河野に遷し九世開霊正保年間三吉に遷る。西本願寺末寺（県史）……光円寺はお東、教円から教えて20代目。

◎　水野勝成土着国人衆召抱之備中三村氏と藤井一門

備中成羽一三村紀伊守親成の子親良一族（勝成勤仕千石）

備中吉井正霊山一藤井能登守皓玄子孫覯負吉親（勝成勤仕六百五十石、一族三郎兵衛二百石）

大津野明智山一藤井太郎左衛門好長子孫覚左衛門吉之（勝成勤仕百五十石）

明智山城関係略年図

南北朝時代(1336年～1392年)	飽浦四郎左衛門尉明智山城築城す
明応9年(1500年)	岡志摩守景勝
弘治2年(1556年)	河野刑部左衛門尉光重、隣国備中有田城主陶山弾正忠国時に敗る
永緑12年(1569年)	藤井皓玄神辺城没落の後当地に来る
天正5年(1577年)	藤井太郎左衛門好長、明智山城廃城す、鳥帽子山城、枝広城も前後して廃城す
天正年中	この頃備中大下（大宜）大橋山城主　高田河内守則義、備中笠岡陶山氏に敗れ大門真明寺にて自刃す　法名端立院一到浄印大居士
天正15年(1587年)	鳥帽子山城跡に五箇八幡建立

（参考文献）　興亡史跡笠岡城物語、歴史読本昭和54年6月号、福山志料

（福山市大門町津之下653）